

史跡讃岐国府跡保存活用計画（素案）についての意見
パブリックコメントの実施結果について

1. パブリックコメントの実施状況

(1) 意見募集期間

令和4年1月17日 ～ 令和4年2月10日

(2) 意見の受付件数

1人 1件

2. 意見の概要と市の考え方

No.	意見の内容	意見に対する市の考え方
1	<p>讃岐国府跡（以下国府）の提示にあたっては、その対象を主要な区域（約1万㎡）に限定することなく、全体像を一括して扱うことが重要です。つまり南北方向に綾北条里から綾川を経て南山まで、そして東部の国分寺（尼寺）から西部の額坂峠までの南海古道を網羅することです。さらには城山城や明神原の展望を含むものです。国府の跡地の提示でなく、国府の有り様全体が確保される必要があります。これは歴史的あるいは文化的景観の獲得ともいえます。</p> <p>この区域において探索事業が継続されています。国府の政庁跡（正殿、脇殿、広場）と開法寺跡の発掘調査です。また国府と綾北条里を結ぶ官道と南海古道の交点の巷の解明もあります。さらに古道が国府から額坂峠に向かう道筋の解</p>	<p>本計画は、「史跡讃岐国府跡」として国の指定を受けた範囲を中心に作成しておりますが、ご意見のとおり、史跡として指定された範囲は、広大な讃岐国府域の一部に過ぎません。そのため、指定範囲外にも讃岐国府の本質的価値を内包する地区が存在するものとして、周辺地域も含めた保存・活用の方向性を示す構成としております。</p> <p>加えて発掘調査をはじめとした調査・研究を継続的に行い、国庁などの重要施設の発見を目指すことで、讃岐国府への理解をさらに深化させ、その価値を広く還元していくことを計画内に盛り込んでおります。</p> <p>今後は、整備に係る委員会で議論を深めるとともに、地域の方々をはじめ広くご意見をお聞きする中で、周辺の関</p>

<p>明も残っています。城山の麓で標高 50～80m の難所を通過した古道はパノラマになります・・・「妻子の鼻過ぎて額坂峠道」。</p> <p>これらの継続事業の展開がいつでも展望できること、さらに現場にアプローチできることの両面を提供してください。南北方向は深く、東西方向は広く、さらに高低差も満足できる地点や場所を選定して「讃岐国府の丘」を造成するものです。国府を訪ねる度に新規事業があつて、また遺構が追加されているとしたら、ファンの満足感は高くなります。そしてこの事業に付帯して交流活動を整備することがあります。国分寺町と綾川町の関連事業との連携が欲しいです。すでに北条念仏踊り保存会との連携をすすめるプロジェクトが立ち上がっています。施設と事業の総合がもたらす効果に期待するところです。</p>	<p>連遺跡との一体的な活用や、讃岐国府成立前夜の時代から、古代讃岐国の歴史的景観を包括的に体感できる場所となるような整備を目指してまいりますと考えております。</p>
---	--